

# 大麦管理情報 (第1号)

## 1 気象経過

- (1) 平均気温は、9月は22.0℃(平年-0.3℃)と平年並、10月は上旬が20.4℃(+1.9℃)とかなり高く、中旬が16.2℃(-0.5℃)と平年並、下旬が14.9℃(+0.6℃)と高かった。
- (2) 降水量は、9月は563.5mm(平年比256%)と平年よりかなり多かった。10月は上旬が43.0mm(75%)と平年並、中旬が70.0mm(141%)と多く、下旬が40mm(75%)と平年並だった。

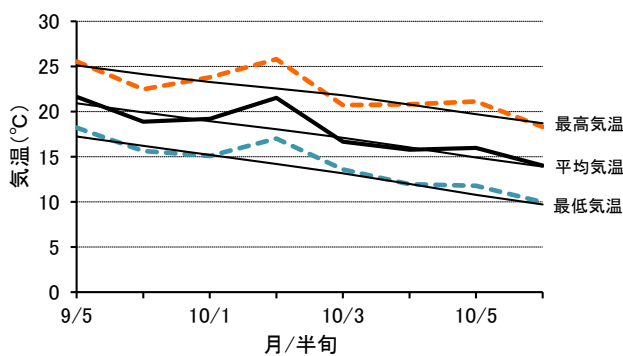


図1 播種時期の気温の推移 (富山地方気象台)

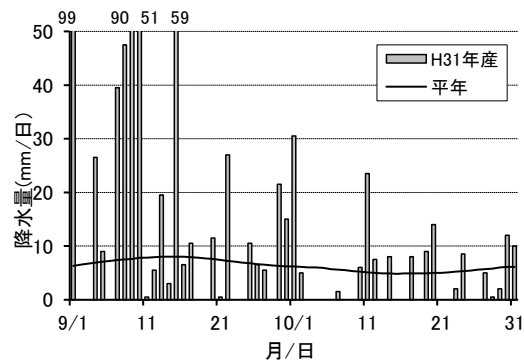


図2 播種時期の日降水量 (富山地方気象台)

## 2 生育概況

- (1) 9月の降水量がかなり多く、排水溝の設置等、ほ場の準備や播種作業が遅れたため、播種日は、平均で10月8日と平年より2日遅くなった。苗立数は、全体の平均では174本/m<sup>2</sup>と平年並となっている。
- (2) 葉齢は平年並(平年差+0.1葉)、草丈は平年並(-0.1cm)、茎数は平年並(+6本/m<sup>2</sup>)、葉色は平年よりやや濃く(+2.3)になっている。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果 (11月1日)

(播種様式:ドリル)

	播種日 (月/日)	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	調査 点数
				(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )			
31年産	10/8	174	20.5	1.9	314	3.3	40.8	10
30年産	10/5	196	21.9	1.9	368	3.6	34.8	10
平年	10/6	176	20.6	1.8	308	3.2	38.5	—

注) 平年は21~30年産の平均。 31年産は調査10地点のうち播種日が遅い1地点は欠測。

## 3 当面の技術対策

### (1) 排水対策の徹底による越冬前茎数の確保

- 越冬前茎数を確保するためには、ほ場の乾きを促進することが重要である。10月中旬に降水量が多く、ほ場が湿潤となっていることから、ほ場毎に、排水溝の崩れや排水口への連結・排水口の掘り下げ状況等を点検し、随時手直しを行い、排水に努める。

### (2) 分施肥体系の年内追肥による茎数の確保

- 基肥窒素は、播種1か月後には大麦の吸収や溶脱により土壤中の残存量が少なくなるので、追肥は、播種後1か月頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に施用する。ただし、追肥時に、茎数が600本/m<sup>2</sup>を超えて過繁茂となっているほ場で色ざめがみられない場合は、窒素成分で10a当たり2~3kg施用する。